



## 説教要旨 「神の前に豊かに」

ルカによる福音書 12章 13～21節

ある人がイエス様に、「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください」と願い出ました。当時の遺産相続では、長男が父の家や財産を受け継いで家督を継ぎ、次男以下は何がしかの分け前をもらう、ということだったようです。正当な取り分を兄が渡してくれないので、この人はイエス様にこのように願ったのでしょう。しかし、イエス様は「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか」（14節）と言ってその願いを退け、「どんな食欲にも注意を払い、用心しなさい」（15節）と、言って一つのたとえ話を語られました。

倉を取り壊してより大きな倉を建てなければならないほどの有り余る収穫を得た金持ちの話です。収穫をすべて倉にしまいこみ、後は遊んで暮らせると喜ぶ金持ちですが、神様は彼に「愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前の用意した物は、いったいだれのものになるのか」（20節）と告げられたというのです。

この金持ちの愚さは、その人生設計から神様を排除しようとしていることにあります。富を独り占めしてため込み、神様がいなくても成り立つ人生を歩もうとしているのです。そこに彼の食欲さがあります。しかし本当に必要なのは、『神の前に豊かに』なること、つまり神様との関係における豊かさをこそ求めることです。この豊かさは、私たちが積み上げ、蓄えることのできる豊かさではなく、神様が一方的に与えて下さる恵みです。神の前に豊かになることは、イエス・キリストの十字架と復活によって与えられた神様の救いの恵みを信じ、それにあずかって生きることです。そこに、食欲から解放された新しい生き方が生まれます。

自分の持っているものに依り頼んで生きるのではなく、神の恵みに依り頼んで生きる時、自分に与えられたものを独り占めしようとして自分の倉にしまいこむ歩みから、与えられたものを隣人と共に分かち合い、互いのために用いていく歩みへと、私たちの人生は変えられて行くのです。



(2019・7・28 説教者：稲垣真実)